國學院大學学術情報リポジトリ「K-RAIN」

2016年度のトピック6 一宮調査

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 齋藤, 公太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001910

一宮調査

2016年度は、文化庁の「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に、國學院大學博物館を中心とする「東京・渋谷から日本の文化を国際発信するミュージアム」が採択されたため、その事業の一環として、日本文化研究所のスタッフが中心となり、全国の一宮を対象とする画像・映像収集を行った。これは同事業を構成する「外国人来館者に対する多言語サービスの充実（多言語化事業）」に関わるものである。

2015年度にも文化庁「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択された「東京・渋谷から日本の文化を発信するミュージアム連携事業」の一環として一宮調査を行ったが、今年度の調査はそれを継承するものとなった。

以下ではその出張・調査の目的と方法、調査地ごとの概要と成果について報告する。

（1）目的と方法

本出張・調査の目的は、國學院大學博物館展示資料に関連する神社の有形文化財や祭礼等の無形文化財についてオリジナルの画像・映像コンテンツ素材を収集・整理し、國學院大學デジタル・ミュージアム上で公開予定の「一宮写真データベース」の充実をはかること、および有名神社の多言語化や情報発信の状況について把握することにある。

調査対象は、全国に数多く神社が鎮座する中より、中世以降、地域の総鎮守として機能した一宮を中心としたが、さらに近代以降の神社社格制度における主だった神社も対象とした。

今年度は2016年11月22日～24日に宮崎県、2017年１月14日～16日に四国にて出張調査を行った。

調査方法としては、調査員が現地におもむき、デジタルカメラやビデオカメラを用いて画像・映像コンテンツを収集するというものになった。

（2）調査地と成果

◆天岩戸神社　高千穂神社　鵜戸神宮　青島神社　宮崎神宮　都農神社

実施日：2016年11月22日～24日

調査員：井上順孝、齋藤公太、和知亮、矢野美紗子

11月22日は調査地・宮崎県への移動と綿密な最終打ち合わせが中心となった。これは翌23日に天岩戸神社・高千穂神社、鵜戸神宮・青島神社を対象とする二つのグループに分かれ、各自調査を行うことに備えてであった。

天岩戸神社（西臼杵郡鎮座）の旧社格は村社であるが、弘仁３(812）年に再興されたという古い歴史を有し、「天岩戸」を神体とす

高千穂神社

る著名な神社である。高千穂神社（西臼杵郡鎮座）は垂仁天皇の時代に創建されたと伝えられ、国史見在社である「高智保神」の論社である。また高千穂郷八十八社の総社とされる。五間社流造の本殿と、鉄造の狛犬は国の重要文化財に指定されている。調査ではこれらの歴史をふまえ、神社の建造物構造や崇敬対象物の特色に着目し、画像・映像資料の収集を行った。また、当日は無形文化財である高千穂神楽の演舞が行われており、その撮影を行うこともできた。

鵜戸神宮（日南市鎮座）は崇神天皇、もしくは舒明天皇の時代に創建されたと伝えられ、旧社格は官幣大社である。日南海岸の断崖の洞窟内に社殿があり、神社一帯に亜熱帯植物が群生するという特色ある景観を有する。青島神社（宮崎市鎮座）の歴史的な創建の年代は不詳であるが、伊東尹祐によって文亀３（1503）年に再興されて以来、代々飫肥藩主である伊東氏の崇敬を受けた。神社が鎮座する青島も熱帯・亜熱帯植物の群生地であり、国の天然記念物に指定されている。調査ではこうした九州地方特有の立地景観に注目しつつ撮影を行い、画像資料を収集した。

11月24日は全員で宮崎神宮（宮崎市鎮座）と都農神社（児湯郡鎮座）の調査を行った。宮崎神宮は神武天皇の東征以前の宮があった場所に創建されたと伝えられ、歴代領主によって崇敬を受けてきた。明治維新以降も官幣大社に列せられた。境内の「オオシラフジ」が国の天然記念物に指定されているように、豊かな鎮守の森も有する。都農神社は式内社であり、日向国一宮でもある。元和３(1617)年に高鍋藩主・秋月種春によって再建されて以降、歴代高鍋藩主の崇敬を受け、明治以降も国幣小社に列せられた。調査ではこのような歴史に着目し、神社空間や建造物構造にも注目しつつ、画像資料の収集を行った。

◆田村神社　金刀比羅宮　大麻比古神社　忌部神社　土佐神社　大山祇神社

実施日：2017年１月14日～16日

調査員：井上順孝、齋藤公太、西尾拓海、仲鉢史也

１月14日は全員で田村神社（香川県高松市鎮座）と金刀比羅宮（香川県仲多度郡鎮座）の調査を行った。田村神社は社伝によれば、和銅２(709)年に社殿が創建されたといわれ、『延喜式』では名神大社に列せられ、平安時代末から讃岐国の一宮として位置づけられるようになった。建仁元（1201）年には正一位に叙されたという。旧社格は国幣中社で、現在は別表神社である。調査では春日造の本殿や入母屋造の拝殿のみならず、新たに造られた七福神や十二支にまつわる石像など、現代の参拝客に対応した神社の景観を撮影した。

金刀比羅宮は歴史的な創建の由来が明確ではないが、海上守護の神などとして古来信仰

都農神社

田村神社

を集めた。宝暦３（1753）年に桃園天皇の勅願所となるなど、朝廷や武将の崇敬が篤く、また庶民にも広く信仰され、全国各地に分社が作られた。旧社格では明治４（1871）年に国幣小社、明治18（1885）年には国幣中社に列せられた。現在は別表神社である。境内の建造物では旭社、四脚門、表書院、奥書院が重要文化財に指定されるなど、神社建築としての価値も高い。今回の調査により神社史の上でも神社建築の点でも重要な同社の写真を多数撮影することができた。

１月15日は効率よく調査を行うため、二手に分かれて調査を行った。第一グループは徳島県に移動し、大麻比古神社（徳島県鳴門市鎮座）と忌部神社（徳島県徳島市鎮座）で調査を行った。大麻比古神社は、社伝によれば阿波国に移り住んだ天富命が祖神・天太玉命を祀ったことが創建の由来であるという。『延喜式』では名神大社に列せられ、阿波国一宮、阿波国・淡路国の総鎮守として崇敬された。享保４(1719) 年には正一位に叙されている。旧社格では国幣中社に列せられ、現在は別表神社である。大麻比古神社はこのように一宮としての古い伝統を有する神社であり、調査ではそのような同社の歴史をふまえ、画像の収集を行った。

一方、忌部神社は阿波国に移り住んだ忌部氏が、祖神・天日鷲命を祀ったことが由来とされる。『延喜式』では名神大社に列せられていたものの、中世に兵火などにより社地が不明となり、近世以降は所在をめぐって議論が続いた。明治期に新たな社地が選定され、現在の社殿は明治25（1892）年に造られたものである。旧社格は国幣中社。現在は別表神社となっている。調査では社地が変遷したという特異な歴史を有する景観を確認することができた。

同日、第二グループは高知県に移動し、土佐神社の調査を行った。同社は雄略天皇の時代に創建されたと伝えられ、土佐国の総鎮守として崇敬されてきた。『延喜式』では名神大社に列せられ、土佐国一宮と称された。旧社格は国幣中社。現在は別表神社である。戦国時代に社殿が焼失したが、元亀２（1571）年に長宗我部元親が社殿を再建。また土佐藩主・山内忠義が楼門と鼓楼を造営した。これらの建造物は国の重要文化財に指定されている。今回の調査によってそのような貴重な神社の景観を写真に収めることができた。

１月16日は再び全員で愛媛県に移動し、大山祇神社で調査を行った。同社の創建の由来は諸説あるが、古来朝廷や武将に篤く崇敬されてきた。『延喜式』では名神大社に列せられ、伊予国一宮として位置づけられた。貞観17（875）年には正一位が授けられている。旧社格は国幣大社であり、現在は別表神社である。現在の社殿は永和４(1378) 年に造営された。境内には国の天然記念物である「大山祇神社のクスノキ群」のほか、多数の国宝・重要文化財を収蔵する宝物館、海事博物館がある。調査では古代から近代に至るまで重要な歴史的役割を果たした同社の広大な景観を、宝物館なども含めて撮影することができた。

以上の調査では各神社の多言語化や情報発信についても確認した。収集した画像については館内展示やデジタル・ミュージアム上での国際的なデータの活用・公開に向けて、博物館で作業が進められている。

大山祇神社

（齋藤公太）